

『江戸の日本刀 新刀・新々刀の歴史的背景』正誤表

〈正誤表…追記も含む〉

誤

- 1 3 頁 刀剣傷は1%も満たない
- 2 9 頁 ムザムザと撃たれる
- 5 3 頁 三代将軍家光の事績を記した『厳有院殿御実紀』における明暦三年(一六五七)六月の「阿部豊後守忠秋の別にて」
- 5 3 頁 「阿部豊後守忠秋の別にて」
- 5 7 頁 山野加右衛門尉
- 5 7 頁 山田浅右衛門尉
- 7 7 頁 表中の年号表記「慶応」
- 9 4 頁 米公方と呼ばれた。

正

- 1 3 頁 刀剣傷は1%にも満たない
↓刀剣傷は1%にも満たない
- 2 9 頁 ムザムザと討たれる
↓ムザムザと討たれる
- 5 3 頁 三代将軍家綱の事績を記した『厳有院殿御実紀』における明暦三年(一六五七)五月の「阿部豊後守忠秋の別墅にて」
↓「阿部豊後守忠秋の別墅にて」
- 5 7 頁 山野加右衛門(59頁、248頁も同様)
↓山野加右衛門
- 5 7 頁 山田浅右衛門
↓山田浅右衛門
- 7 7 頁 「慶安」
↓「慶安」
- 9 4 頁 米公方と呼ばれた。(二九四頁「江戸の米価の推移」表参照。享保期は米価が低迷していることがわかる)
↓米公方と呼ばれた。(二九四頁「江戸の米価の推移」表参照。享保期は米価が低迷していることがわかる)
- 1 2 5 頁 神田白龍子(二代)(174頁も同様)
↓神田白龍子(二代)(174頁も同様)
- 1 3 3 頁 「寺子屋開業の状況」表の1,286、8,675、10,296とプリオ
↓桁数を示すカンマ表記1,286、8,675、10,296に修正

ド表記は誤り

- 1 6 9 頁 大黒屋光太夫の話をまとめ
↓大黒屋光太夫の話を『北棧聞略』にまとめる
- 2 6 0 頁 幕臣窪田清音の支援を受けて鍛冶に励む。
(天保二年に一度出府して窪田清音の為に脇差を作刀している。27章参照)

〈補足〉 平成三十一年二月

- 4 9 頁 慶長一八年のキリシタン禁教令時点での信徒数を二八万〜三〇万人と書いたが、近年は三七万人の信徒数とする資料がある(原典は確認していないが歴史学者神田千里氏、国際関係論学者大泉光一氏の著作に引用されている)。将軍が試刀に立ち会ったのは明暦三年五月二十九日(『徳川実紀』より)。
- 5 3 頁 神田白竜子(二代)と修正したが、二代が講談の神田派初代神田伯竜(『日本刀大百科事典2』『神田白竜子』の項参照)だと時代が合わず、また伯竜が刀剣に造詣があったかも疑問である。この話の出典『北窓瑣談』の検証が必要か。

- 1 9 1 頁 「大慶直胤の旅(刻印の地)」の表において、佐倉には嘉永五年にも訪問していること、弟子に遠藤直桓がいることが明らかにされる(「佐倉藩幕末刀工事情」(井原重之著「麗」622号平成二十九年十月号)より)。